



# 特 記 仕 様 書 ( 2 )

II 工事種目																																														
● 衛生器具設備	取付位置 大便器 化粧鏡 流量調整 洗濯機パンシール(コーキング)	<p>※ 衛生器具及び周辺機器類の取付位置は総合図・展開図等を作成して、確認後に取付けること。 (特に、便器類と手すり・便器類と操作ボタン類・操作ボタン類と手すり等の位置関係に注意)</p> <p>※ 和風大便器下面でコンクリートに接する部分はアスファルト塗布(3mm以上)とする。(県標準図1)</p> <p>※ 和風大便器を防火区画に設置する場合、和風便器用耐火カバーを設ける。</p> <p>※ 化粧鏡取付にあたっては落下破損防止のため、裏面シール材等による張付にて取付などの処置を施す。</p> <p>※ 小便器・大便器等の自動フラッシュ弁流量調整は、下記の流出時間を目安とする。ただし、衛生器具のマニュアル等に記載があれば内容に準ずること。 大便器 8~10秒 小便器 8~10秒 自閉式水栓 7秒</p> <p>※ 洗濯機パンを設置する床面は、耐荷重性と平滑性に注意する。</p> <p>○ 器具類と壁・床のシール(コーキング)打ちは右記の表による。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器種別</th> <th colspan="2">設置場所の床が湿式(防水)</th> <th colspan="2">設置場所の床が乾式(非防水)</th> </tr> <tr> <th>壁</th> <th>床</th> <th>壁</th> <th>床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洋風便器</td> <td>—</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>洗面器類</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>掃除流し</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>不</td> </tr> <tr> <td>洗濯流し</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>不</td> </tr> <tr> <td>洗濯パン</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>不</td> </tr> <tr> <td>ステンレス流し台</td> <td>要</td> <td>不</td> <td>要</td> <td>不</td> </tr> <tr> <td>化粧棚</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>壁・床の仕様にかかわらず、自動水栓装置・コンセント・非常呼出しなど電気機器類に水かかりが好ましくない場合はシール打ちを施す。</p>	機器種別	設置場所の床が湿式(防水)		設置場所の床が乾式(非防水)		壁	床	壁	床	洋風便器	—	不	—	要	洗面器類	不	—	要	—	掃除流し	不	—	要	不	洗濯流し	不	—	要	不	洗濯パン	—	—	要	不	ステンレス流し台	要	不	要	不	化粧棚	不	—	要	—
機器種別	設置場所の床が湿式(防水)			設置場所の床が乾式(非防水)																																										
	壁	床	壁	床																																										
洋風便器	—	不	—	要																																										
洗面器類	不	—	要	—																																										
掃除流し	不	—	要	不																																										
洗濯流し	不	—	要	不																																										
洗濯パン	—	—	要	不																																										
ステンレス流し台	要	不	要	不																																										
化粧棚	不	—	要	—																																										
● 給水設備	負担金類 継手類 バルブボックス隠蔽部の保温 既設給水鋼管への接続 水槽類の施工手順 水槽類の衛生管理 引渡前の水質の管理	<p>● 不要 ○ 要( )</p> <p>※ 直圧給水弁は水道事業者の指定品(指定のない場合は、二次側給水に準じた弁)</p> <p>※ 二次側給水弁(土中): 40A以下は青銅製で蝶ハンドル付き止水栓、50A以上はソフトシール制水弁(内面ライニング)</p> <p>※ 二次側給水弁(一般): 40A以下は管端防食ねじ込み形青銅弁5K、50A以上は鑄鉄製F付き内面ライニング弁5K</p> <p>※ 水栓エルボ、水栓ソケットは器具側砲金内ねじ形とする。</p> <p>※ ユニットバス付属の水栓エルボへの接続は砲金継手等を使用し、管端の防錆をする。</p> <p>※ ビニル管とライニング鋼管の接続には水栓エルボ・水栓ソケットは使用しない。</p> <p>※ T Sバルブソケットは金属製(砲金)おすネジを打込しているものを使用する。</p> <p>※ 水道事業者の指定がない場合の埋設弁のボックスは、県標準図5・6による。</p> <p>※ 給水管の細部保温は特記なき場合は下記の通りとする。壁中等で仕様書通りの施工が困難な場合は監督職員の指示により保温を施す。 空間の有る壁中配管 → 要 流し下の空間配管 → 要</p> <p>※ 改修工事等で鋼管類(ライニング鋼管)を切断して、やむを得ずメカニカル継手を使用する場合には、鋼管類の切断部の防錆処理として、JWWA K 135規格適合品(エポキシ系DEVCON SF等パイプライニング用)にて処置する。</p> <p>※ 水位設定の協議後に、水位高さ入り施工図を作成し発注・施工を行う。なお、県標準図4を参考とし水位高さを協議する。</p> <p>※ 受水槽・高架水槽を新設(改修等含む)施工する場合は、清掃・消毒等後に水張りを行う。</p> <p>● 残留塩素濃度の測定を行う。(端末において0.2mg/L以上検出されるまで消毒を行う。)</p> <p>● 建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づく水質検査(11項目)について行うこと。採水場所は指定の箇所で(1ヶ所)とする。</p>																																												
● 排水設備	保護砂 砂利 樹脂製排水樹 衛生器具等の接続 排水管の防露 排水管の試験等 その他	<p>○ 第1樹以降の屋外ビニル管部分には、保護砂(180度台)を要す。</p> <p>○ 遠心力鉄筋コンクリート管部分には砂利台を要す。</p> <p>※ 防護蓋を設置する場合は県標準図7による。</p> <p>● 洗面器等の排水金具と専用の排水アダプタでビニル管に接続できない場合、VCパッキンを使用する。</p> <p>※ 既製流しの排水金具に使用しているジャバラホースはそのまま使用せず、VP配管直結(VCパッキンでも可)とする。県標準図5による。</p> <p>○ 雨水立管の下部受部は差込継手を使用する。(但し平屋建は不要とする。)</p> <p>※ 空間のある壁中配管・集合住宅等のスラブ上配管・受水槽他水槽からドレンバルブまで→必要 流し台下空間配管・実験台等への立ち上がり露出配管→不要</p> <p>○ 満水試験 ● 通水試験 ○ 鏡確認</p> <p>※ 洗濯機排水金物の床貫通部等は共住区画に適合する処理を施す。</p>																																												
○ 消火設備	消火栓箱	<p>○ 消火栓箱は(○ 県標準図12 ○ 国土交通省仕様 ○ メーカー仕様)</p> <p>○ 共住区画の消防検査受検必要</p>																																												
○ 給湯設備	弁絶縁対策 給湯管の保温 大気汚染対策	<p>○ 40A以下は青銅弁5K、50A以上は一般配管用ステンレス鋼弁10K</p> <p>※ 鋼管及びステンレス配管は支持金物との絶縁処理を行う。</p> <p>※ 銅板製ボイラー及び鋼管との接続等、異種管との接続には絶縁継手を使用する。</p> <p>※ 給湯配管に簡易保温筒(クイックチューブ)を使用する場合は耐熱性のものを使用する。</p> <p>※ 被覆鋼管の継手カバーは保温付きのものを使用する。</p> <p>※ 給湯器の配管化粧カバー内は凍結破損防止を考慮した保温(簡易保温筒)施工を行う。</p> <p>○ 排ガス監視装置を要す。 ○ ばい煙濃度測定口を要す。</p>																																												
○ ガス設備	ガス集合装置 給湯器用止水弁 その他	<p>※ ガス集合装置は県標準図9・10・11を参照し、漏洩検知装置・耐震遮断装置・転倒防止金具等の必要有無に注意する。</p> <p>※ スプリングチャッキ内蔵ボール弁を使用する。</p> <p>※ ガス用フレキ管とガスコック等(ヒューズコック)との接続は、コック等の固定が出来る部材等を使用して接続する。</p> <p>※ ゴムホース接続なきコックはゴムキャップを付ける。</p> <p>※ ボンベ支持クサリ用のアンカーボルトは、10mm以上のもので、下記のいずれかとする。</p> <p>※ 埋込アンカー・雄ネジ形メカニカルアンカー・接着系アンカー(ケミカルアンカー)なお、チェーン、フックも同様の強度を持つものとする。</p> <p>※ 自記記録計によるガス圧テスト表の写しを県に提出し、正本は施工業者で5年間保存する。</p>																																												
○ 浄化槽設備	種汚泥 試運転調整 その他	<p>※ 使用開始時には必要に応じて種汚泥を投入する。</p> <p>※ 浄化槽の使用開始後おおむね3ヶ月間の試運転調整を行うもので、浄化槽法による「保守点検及び清掃等」を行うほか下記の事項を言う。 1 維持管理を管理業者に引継ぐ場合は直前に水質検査(BOD、SS、PH、大腸菌、塩素イオン)を行い、そのコピーを維持管理業者、施設管理者、工事監督者に渡し、設計・施工・現況の注意事項を申し送ること。</p> <p>※ 見やすい場所に型式、施工者名、設置年月、処理能力、放流水質を記入した銘板を設置する。</p> <p>※ コンクリート頂版スラブを施工する場合、モルタルの浮き上がり、及び、水たまりが出来ないように仕上げ勾配に注意する。</p> <p>○ 補助金申請設備</p>																																												

○ 空調調和・換気設備	空調機器の仕様 パッケージエアコン等 自動空気抜き弁装置 冷媒配管のラッキング ダクト 制気口 チャンバ 消音内貼り 厨房等の排気フード 送風機(大型) エアコン類の電気工事 防振ハンガー 耐震対策 措置 機器付属の制御盤 大気汚染対策	<p>※ グリーン購入法(国等による環境物品等の調達推進等に関する法律(平成十二年法律第百号))の判断基準適合品とする。 なお、パッケージ及びマルチエアコン等については、各メーカーの最高効率機種とする。</p> <p>○ 屋外機はJRA耐重塩害仕様とする。 ○ 屋外機は耐塩害仕様とする。</p> <p>※ パッケージエアコン屋内機の施工については県標準図13を参考にして注意する。</p> <p>○ 天カセ形室内機の取付等による天井の開口及び補強・補修を行う。(建築工事標準詳細図参照)</p> <p>1) 補強野縁は野縁と、補強野縁受及び取付け用補強材は野縁受と同材とする。</p> <p>2) 野縁受のはね出しが300mm以上の場合は、増し吊りを設ける。</p> <p>※ 室外機には設置場所を問わず、溶融亜鉛メッキ製またはSUS製の転倒防止金具もしくは転倒防止ワイヤーを設ける。</p> <p>○ 不要 ○ 要( )ヶ所 自動空気抜き弁にはGV及びストレーナーを取付ける。</p> <p>※ 配管ラッキング(溶融アルミニウム-亜鉛鉄板・配管化粧カバー)は室外機の直近まで施す。</p> <p>※ 配管化粧カバー(スリムダクト)の場合は、エンドキャップを使用しテープ巻きの範囲を最小限とする。(フリーコーナー(ジャバラ)は使用しない。)</p> <p>○ アルミフレキ(不燃材料認定品) ○ ステンレスフレキ(不燃材料認定品) ○</p> <p>○ 空調換気ダクトの気密性が特に重要な室に設ける。制気口・ボックス・保温及び天井の取まりについては県標準図14の記載内容を確認する。</p> <p>※ 内貼りチャンバの寸法表示は、外法寸法とすること。サプライチャンバにはその上に銅きつ甲金網押えを行う。</p> <p>※ 消音材はグラスウール(吹出口チャンバー・吸込口チャンバー・レターンチャンバーは25mm厚、サプライチャンバーは50mm厚)とし、ガラスクロス押えとする。</p> <p>※ 排気フードは、SUS304製とする。(1.0mm厚)</p> <p>※ フィルターは分解掃除が出来るものにする。</p> <p>※ 黄銅製コックは20mmのものとする。(キャップ止でもよい)</p> <p>※ 火器使用機器が確定後にフードの形状寸法を変更して、投影面積が変わる場合はフードの面風速もチェックする。 (参考: フードの面風速は一般的に0.3m/sとして設計している。)</p> <p>※ 送風機の機器表にファンの番手(＃)を明記している場合、小さい番手にしない。</p> <p>※ エアコン設置に必要な一次側電源送り以降の、室内外渡り電源線、制御線、アース(CE2sq/4C・CE3.5sq/4C程度)を要す。</p> <p>※ リモコン線はEM-AE0.9mm/2C~3C、又はVCTF0.75sq/2C~3Cとする。(但し延長が10m以下のリモコン線は機器付属品でもよい。)</p> <p>※ 室内外の渡り配線で、冷媒配管と同ルートに施工する場所は同保温外装内に納める。(電源・制御配線の最低離隔距離は機器メーカーの基準に準ずる。)</p> <p>※ 表示窓の付いたリモコンの取付場所は視認性の良い高さ(1,300~1500h)照明SWの上を標準とするが、総合図で充分打合せ調整を行う。</p> <p>※ 防振ハンガーの設置判断基準は県標準図14による。</p> <p>※ 震災後の設備機能確保を図る実務的設備耐震対策措置は県標準図15による。</p> <p>※ 冷温水発生機、ボイラ及び温風暖房機の盤の始動スイッチの二次側に煤煙濃度計用電源端子を設ける。</p> <p>○ 排ガス監視装置を要す。 ○ ばい煙濃度測定口を要す。</p>
● 別工 途事	別 途 工 事	<p>● スリーブ、箱入れの補強筋 ○ ガラリー ○ 点検口 ○</p> <p>● 天井および壁貫通に対する地下補強 ○ プロパンボンベ庫 ○</p>

III 材料メーカー表		
材 料	材 料 メ ー カ ー	
衛 生 陶 器	TOTO、LIXIL(INAX)、ジェニス工業	
水 栓 金 具 類	TOTO、LIXIL(INAX)、ジェニス工業、三栄水栓	
F R P 水 槽	三菱、日立、積水、ブリヂストン	
う ず 巻 ポ ン プ	荏原、日立、テック、川本	
水 中 モ ー タ ー ポ ン プ	荏原、日立、テック、川本、鶴見	
汚 水 ・ 汚 物 ポ ン プ	荏原、日立、テック、川本、鶴見、新明和	
電 気 温 水 器	四変テック、ユパック、日本電熱、東芝、パナソニック、三菱、日立	
厨 房 機 器	日本調理、フジマック、北沢、ホシザキ四国、タニコー、マルゼン	
小 型 鋼 板 ボ イ ラ ー	巴、昭和、愛知、ネボン、ヒラカワ	
F R P 膨 張 タ ン ク	日立化成、三菱樹脂、ホーコス	
ル ー ム エ ア コ ン	ダイキン、三菱、日立、パナソニック、東芝キャリア	
パ ッ ケ ー ジ エ ア コ ン	ダイキン、三菱、日立、パナソニック、東芝キャリア	
冷 温 水 発 生 機	矢崎、日立、荏原、川重、三菱重工、パナソニック	
エ ア ハ ン ド リ ン グ ユ ニ ッ ト	新晃、ダイキン、三菱、昭和、日立、木村、東芝キャリア、三菱重工	
送 風 機	日立、テラル、荏原、パナソニック、谷山、ミツヤ、旭電業	
冷 却 塔	矢崎、日立、荏原シンワ、空研、日本スピンドル	
自 動 制 御 機 器	アズビル、ジョンソンコントロールズ	
ロ ー ル フィ ル タ ー	日本スピンドル、東洋空調和、日本エアフィルタ	
全 熱 交 換 形 換 気 扇	三菱、パナソニック、テラル、東芝、日立、ダイキン	
そ の 他	国土交通省仕様適合品	

完成後必要な 取扱資格者	ボ イ ラ	○ 資格不要 ○ 特別教育修了者(小型ボイラ) ○ 講習修了者 ○ ( ) 級ボイラ技士
	危 険 物	○ 資格不要 ○ 危険物取扱主任者
	冷 凍 機	○ 資格不要 ○ 第( ) 種冷凍機械作業主任者

	官公庁等	打 合 せ 事 項	確 認 日
給 水			令和 年 月 日
排 水			令和 年 月 日
消 防			令和 年 月 日
浄 化 槽			令和 年 月 日
ガ ス			令和 年 月 日
そ の 他			令和 年 月 日

	<p>松本琢史建築設計事務所 TAKUJI MATSUMOTO Architect &amp; Associates</p> <p>一級建築士大臣登録第322947号 松本琢史</p>	<p>図 面 N 〇</p> <p>(特記) 02</p>
--	--	-------------------------------





**県標準図 9** プロパンガス集合装置(2~6本立)転倒防止金具 作 図 令和 2年 6月

※ 使用材料等は規格に合ったものとする。

高圧集合装置(自動切替方式)2本立

高圧集合装置(自動切替方式)4~6本立

ポンベハウス型

支持金物

転倒防止金具施工要領

直列片側1本立	直列片側2本立・並列片側3本立	直列片側4本立・並列片側7本立
材 質 SUS304 50×50 アングル	材 質 SUS304 40×5t フラットバー	材 質 SUS304 40×5t フラットバー
ポンベチェーン SUS304 4~6mm	ポンベチェーン SUS304 4~6mm	ポンベチェーン SUS304 4~6mm
[注意] 左右、2個必要です。		

市販ポンベ庫内に設置する転倒防止金具

**県標準図 10** プロパンガス集合装置(8~18本立)・転倒防止金物 作 図 令和 2年 6月

※ 使用材料等は規格に合ったものとする。

高圧集合装置(自動切替方式)8~14本立、16~18本立

転倒防止金物施工要領

市販ポンベ庫内に設置する転倒防止金具

**県標準図 11** 漏洩検知装置付プロパンガス集合装置(4~18本立) 耐震遮断装置付プロパンガス集合装置(4~18本立) 作 図 令和 2年 6月

※ 使用材料等は規格に合ったものとする。

集合装置(漏洩検知装置付)4本~6本立

集合装置(耐震遮断装置付)4本~18本立

漏洩・耐震遮断装置付きの場合

**県標準図 12** 1号消火栓納箱(露出型) 1号消火栓納箱(埋込型) 作 図 平成 15年 4月

正面図 側面図 内部格納図

正面図 側面図 内部格納図

仕様

材 料	内 容	規 格	備 考
材料	1.1.6表面処理鋼板	バルブ 40A X 90°	(青銅製クロムメッキ仕上) 1種
塗料	メラミン樹脂塗付	ノズル 40A X φ13	(青銅製クロムメッキ仕上) 1本
塗色	鋼指定色( )	ホース架 40A X 23#	(青銅製クロムメッキ仕上) 1種
文字	丸ゴシック体カッティングシール	ホース 40A X 19#	(鋼製品・内径φ110) 2本

**県標準図 13** パッケージエアコンの施工 製 作 平成 29年 5月

天カセエアコン室内機における主な注意点

- ①機器の取り付けは、取付金具の下部ダブルナット・増設後チェック用マーキングとする。
- ②室内機付属のフレキシブルホースは機器の直近に設置する。
- ③ドレン管の立上りには必ず吊り止めを付ける。
- ④ドレン管放水用には、必ず下流側に排水口を付ける。
- ⑤ドレン管の支持間隔は1m以内とする。(注:排水管の支持間隔)
- ⑥ドレン管の立上り高さ等は製造業者の仕様とする。
- ⑦冷媒配管の支持間隔は基準外径φ9.5mm以下の場合1.5m以下、12.7mm以上の場合は2.0m以下とする。
- ⑧冷媒管の振動軽減のため、市販の保護材(フレート)を付ける。
- ⑨点検口は、機器へのドレン管接続部近辺に設置する。
- ⑩耐震用の揺れ止めには、設置する金具はボルト・ナットにて強固に取り付けること。

天つりエアコン室内機における主な注意点

- ①吊ボルトと室内機との固定(下記詳細図)
- ②冷媒とドレン管共吊り止め

天つりエアコン室内機における主な注意点

- ①地震等の大きな揺れで天井ボードが破壊され、取付金具が持ち上がり落下しない対策を行う。
- ②ドレンアップ機能の付いていないドレン配管は、室内機直近で立ち下げる。

**県標準図 14** 制気口及びチャンパの施工 防振ゴムハンガーの設置 製 作 令和 2年 6月

特に、クリーンルーム・収蔵庫・恒温恒湿室等に気密性を要する室に、制気口を設置する場合は、下記の点に注意する。

制気口

防振ゴムハンガーの設置

**県標準図 15** 設備耐震対策措置 製 作 令和 2年 6月

(機能確保を図る標準的な対策)

(機能確保を重視した対策)

**県標準図 16** 金属系アンカー 製 作 令和 2年 6月

スリーブ打込み式 (おねじタイプ)

ウェッジ式 (おねじタイプ)

機器の固定に使用する金属系アンカー

ポンベハウスの固定に使用する金属系アンカー

※ ポンベハウスの固定アンカーに関する注意点 (部分抜粋)

アンカーボルトの穴は、深度80mmとしてコンクリートドリル刃外径16.5mmを使用し、水平なコンクリート基礎の上に設置します。ポンベハウスの土台を付属品の後施工アンカー(テーパーボルト式アンカー-外径16mm 塗油亜鉛めっき)にて止めてください。

公益社団法人 空気調和・衛生工学会 『建築設備の耐震設計 施工法』より

工事概要

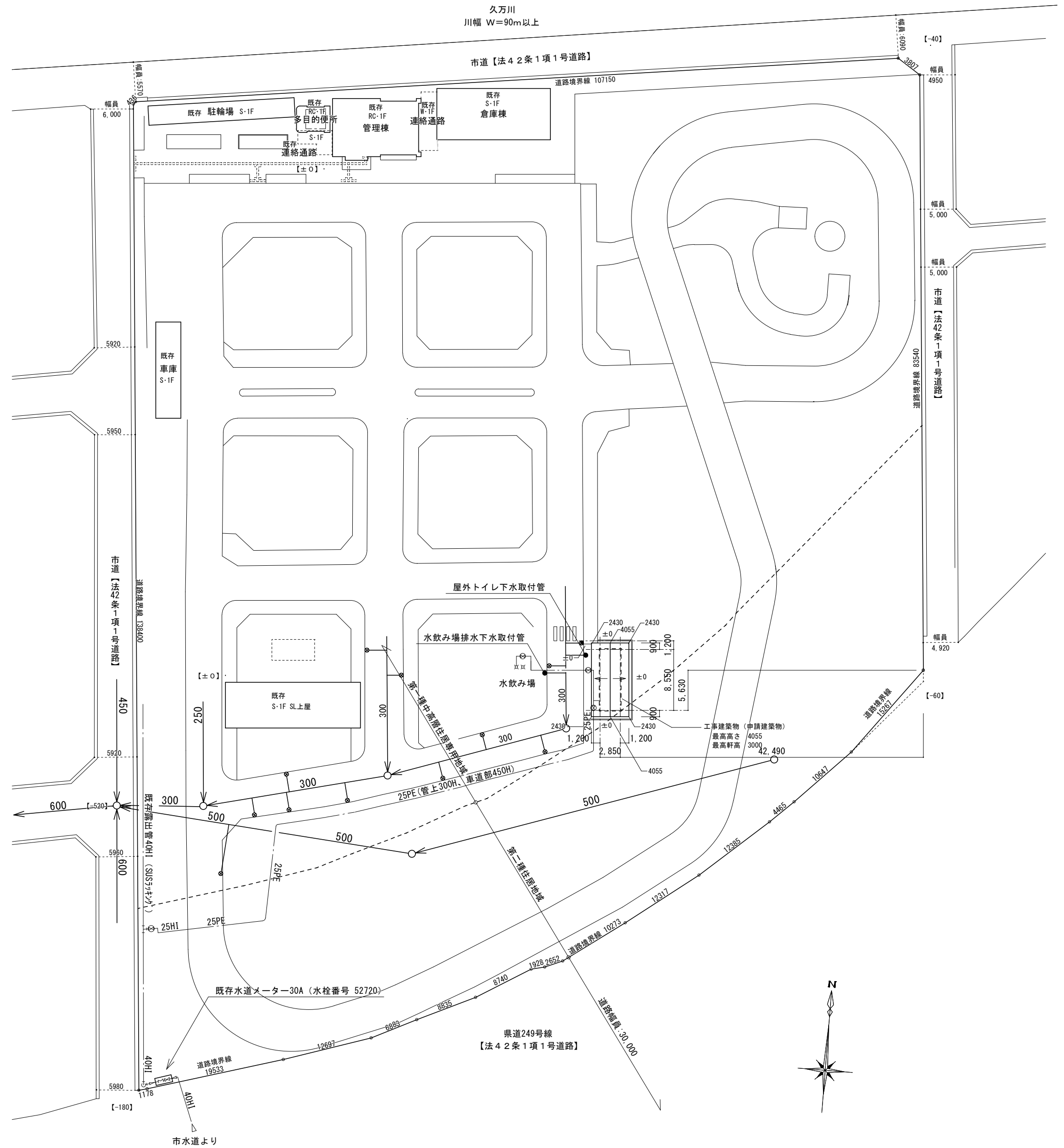
○トイレ棟の新築に伴う給排水衛生設備工事

※給水方式：直圧方式

※下水道：合流地域



付近見取図



配置図 1/500

工事名 交通安全子どもセンタートイレ改築機械設備工事

図面名 機械設備 工事概要・付近見取り図・配置図

CHECKED BY

DRAWN BY

Matsumoto

松本 琢史 建築設計事務所  
TAKUJI MATSUMOTO Architect & Associates

一級建築士大臣登録第322947号 松本 琢史

NO

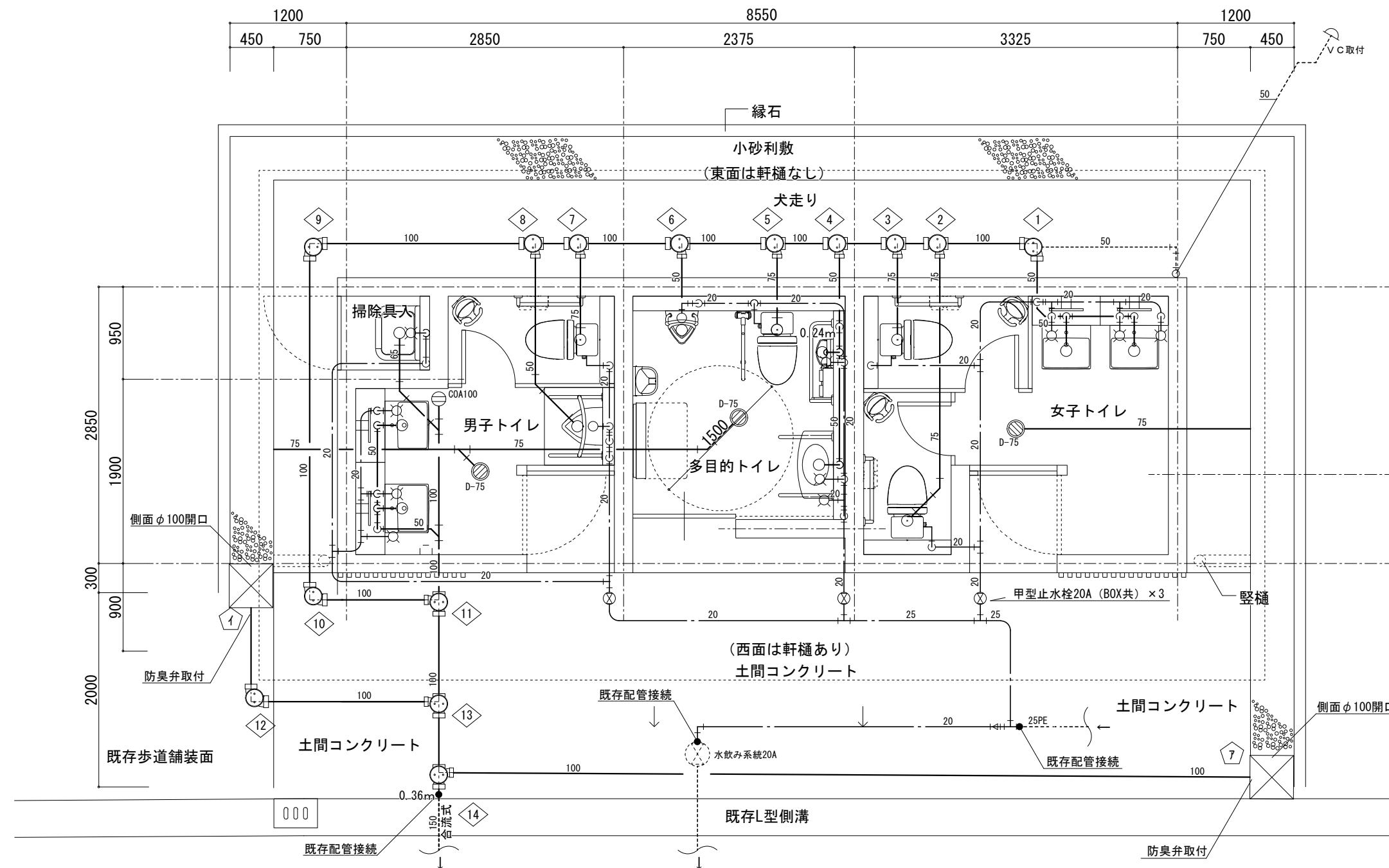
M-01

SCALE

1/500

衛生器具表

器具名	参考品番・仕様 (上段:TOTO 下段:LIXIL)	電源	数量合計	男子便所	女子便所	多目的便所	掃除具入
腰掛大便器 (ロータンク) センサースイッチ	CS597BS, SH596BAYR, TC291J, TC60, HE37 他附属品共	AC100V	3	1	2		
腰掛大便器 (ロータンク) センサースイッチ	CS597BS, SH596BAYR, TCF587Y, HE37 他附属品共	AC100V	1			1	
紙巻器 (棚付横二連)	YH702 他附属品共 CF-63HST 他附属品共		4	1	2	1	
L形手すり	T112CL9 他附属品共 KF-920AE70D12J 他附属品共		3	1	2		
L形手すり	T112CL11 他附属品共 KF-926AE80D25J 他附属品共		1			1	
跳ね上げ手すり (ロック付)	T112HK7R 他附属品共 KF-471EH70J 他附属品共		1			1	
背もたれ	EWG385CS 他附属品共 KFC-271T1U2 他附属品共		1			1	
小便器	UFS900R 他附属品共 U-A51AP 他附属品共	AC100V	1	1			
小便器用手すり	T112GU22 他附属品共 KF-701AEJ 他附属品共		1	1			
幼児用小便器	U310GY, T601P, T64CP, T9R 他附属品共 U-401R, UF-3J, UF-13AMP, UF-114E, KF-AA910CE40 他附属品共		1			1	
洗面器 (自動水栓)	L710C, TENA41AJ, TLDP2201J, T9R 他附属品共 L-555FC, AM-300V1, LF-WN7PCFL, SF-10E 他附属品共	AC100V	4	2	2		
洗面器 (自動水栓)	L270D, TENA40A, TLDP2105J, TL220D 他附属品共 L-275FCR, AM-300V1, LF-WN7PF, SF-10E 他附属品共	AC100V	1			1	
手洗器 (自動水栓)	LSE570AP 他附属品共 AWL-71U2AMP 他附属品共	AC100V	1			1	
洗面器用手すり	T112CP26 × 2 他附属品共 KF-316AE70 他附属品共		1			1	
掃除流し	SK22A, TK22, T23AEQ20, TN114, T9R, T37SGEP 他附属品共 S-202A, LF-7KEZ-19, SF-20SAF-P, SF-202 他附属品共		1			1	
ベビーチェア	YKA16S 他附属品共 AC-BK-F62, AC-BC-F31 他附属品共		3	1	2		
ベビーチェア	YKA15S 他附属品共 AC-BK-F62 他附属品共		1			1	
ベビシート	YKA25S 他附属品共 AC-OK-F11 他附属品共		1			1	
横水栓	T200SNR13 他附属品共 LF-7R-13 他附属品共		3	1	1	1	
化粧鏡	建築工事		(5)	(2)	(2)	(1)	



排水樹リスト

記号	タイプ	サイズ	本管径	樹深さ 管底高	樹蓋	備考
1	ビニル樹 (90L)	φ 150	φ 100	500 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
2	ビニル樹 (90Y)	φ 150	φ 100	510 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
3	ビニル樹 (90Y)	φ 150	φ 100	515 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
4	ビニル樹 (90Y)	φ 150	φ 100	525 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
5	ビニル樹 (90Y)	φ 150	φ 100	530 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
6	ビニル樹 (90Y)	φ 150	φ 100	540 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
7	ビニル樹 (90Y)	φ 150	φ 100	550 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
8	ビニル樹 (90Y)	φ 150	φ 100	555 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
9	ビニル樹 (90L)	φ 150	φ 100	580 H	塩ビ製蓋 φ 150 (ターフ式)	
10	ビニル樹 (90L)	φ 200	φ 100	620 H	塩ビ製蓋 φ 200 (ターフ式)	
11	ビニル樹 (90Y)	φ 200	φ 100	635 H	塩ビ製蓋 φ 200 (ターフ式)	
12	ビニル樹 (90L)	φ 150	φ 100	360 H	塩ビ製蓋 φ 200 (ターフ式)	
13	ビニル樹 (90Y)	φ 200	φ 100	645 H	塩ビ製蓋 φ 200 (ターフ式)	
14	ビニル樹 (90Y)	φ 200	φ 150	650 H	塩ビ製蓋 φ 200 (ターフ式)	

- ※) ビニル樹は塩ビ製インバート樹とする。
- ※) 実深さ600Hより樹径はφ200とする。
- ※) V P変換ソケットを使用すること。 φ125からはV Uとする。
- ※) 排水勾配は原則 1/100とする。
- ※) 管下合わせとする

雨水排水樹リスト

記号	タイプ	本管径	樹深さ 管底高	樹蓋	備考
7	既成コンクリート樹	450口 φ 100	350 H	CB-S 450	防臭弁取付
4	既成コンクリート樹	450口 φ 100	350 H	CB-S 450	防臭弁取付

- ※) 泥溜り150H確保すること。
- ※) 排水勾配は原則 1/100とする。
- ※) 管上合わせとする

屋内配管付属品リスト

名称	個数
水栓工機	13
水栓チヌ	11
異種管接続アダプター	5

工事名 交通安全子どもセンタートイレ改築機械設備工事

図面名 機械設備 平面図

CHECKED BY DRAWN BY Matsumoto

松本 琢史 建築設計事務所  
TAKUJI MATSUMOTO Architect & Associates

一級建築士 登録第322947号 松本 琢史

NO

M-02

SCALE

1/50